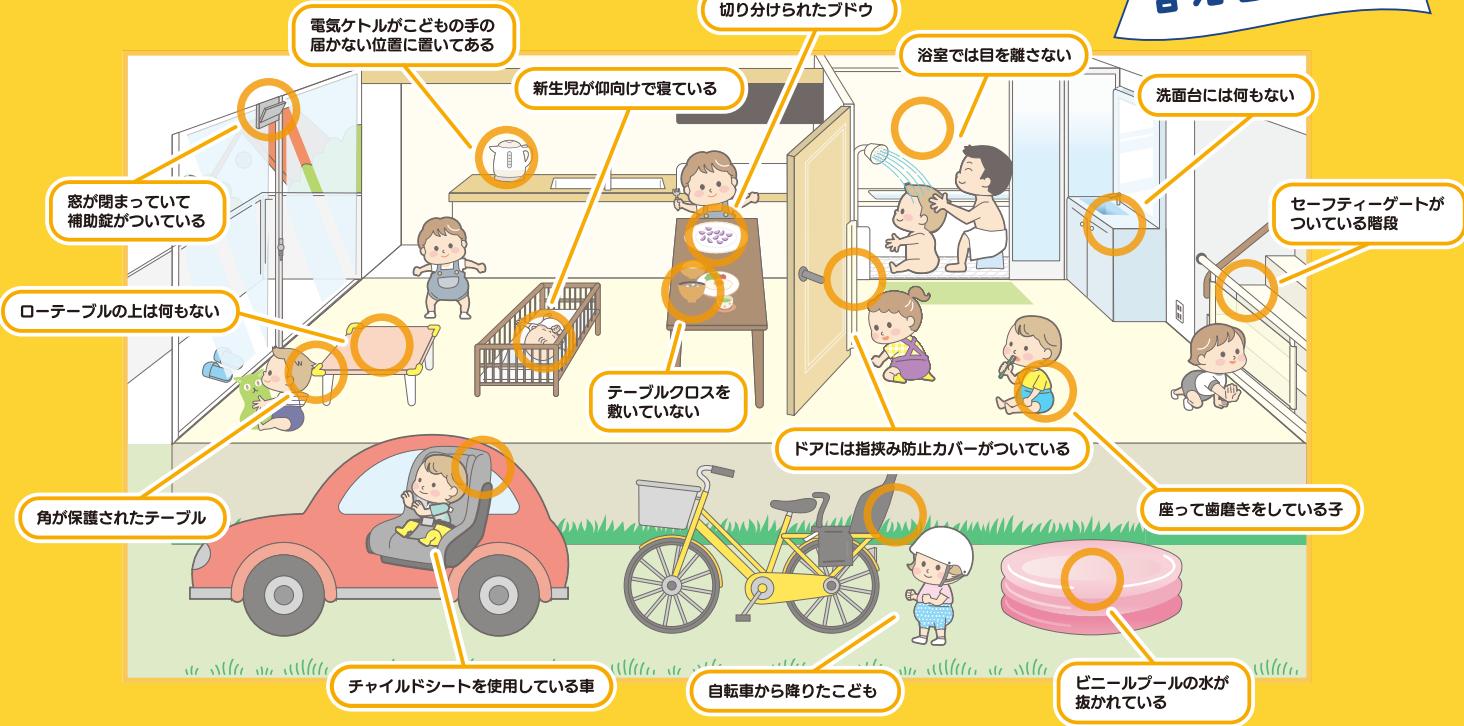


みんなで支えよう
こどもたちの未来!
～小さなのちに 安心のケアを～

まちがいさがし

答え合わせ編



窓を開いていてベランダにこどもが出ている
ベランダから転落する恐れがあります。こどもの手が届かない高さに補助錠を設置しましょう。また、開きを制限するストッパーの使用も有効です。

電気ケトルとカップラーメンが子どもの手が届く位置に置いてある

やけどの事故は、つかまり立ちや低い歩き、ハイハイで行動範囲が広がる、1歳前後に多く起きています。こどもの手が届かないように、高温の飲み物や汁物をテーブルに置くときは中央に置きましょう。

新生児がうつ伏せてすぐ隣にぬいぐるみがある

仰向けて寝かせましょう。また、柔らかいぬいぐるみや寝具は窒息のリスクがあるため使用を控えましょう。

ブドウをそのまま食べようとしている

乳幼児に食品を与える際は、無理なく食べられるように小さく切り、飲み込むまで目を離さないようにしましょう。ミニトマトやブドウなど、丸くつぶさないとした食品は、そのまま口に入れるのは危険です。4等分に切って与えるようにしましょう。節分の豆まさなどは使用する使い大豆や、ナツツケはこどもにとって窒息や誤嚥のリスクがあります。5歳以下のこどもには、使い豆やナツツケ類は与えないようにしましょう。

親が髪の毛を洗っていてこどもが浴槽で溺れている

大人が洗髪する際には、こどもを浴槽から出してしまいましょう。浮き輪の使用中でも溺れる事故が発生しています。保護者が目を離す状況で使用するのはやめましょう。お風呂から上がる際には、こどもを先に治槽・浴室から出しましょう。

ローテーブルの上に散らかったジグソーパズル

ジグソーパズルなどの小さなおもちゃには誤飲のリスクがあります。年上のこどものおもちゃには、小さな部品が含まれていることがあります。対象年齢になるまでは、こどもの手の届かない所に保管し、遊ばせないようにしましょう。おもちゃの購入時や利用時は、商品の対象年齢を必ず守りましょう。

保護されていないテーブル

転倒してテーブルなどの家具の角に顔や頭をぶつけ、けがをすることがあります。角の丸い家具を選ぶ、クッションテープを取り付けるなどして、ぶつかるだけがをしないように工夫をしましょう。

チャイルドシートを使用していない車

チャイルドシートはこどもの体格に合わせたものを使用するようにしましょう。

テーブルクロスの上にご飯が並んでいる

テーブルクロスやランチョンマットは、こどもが引っ張って、その上に載った容器を倒す原因になりやすいので使わないようにしましょう。

自転車の補助椅子に1人残されているこども

こどもを乗せたまま自転車を離れないようにしましょう。こどもを2人乗せる時は、転倒防止のため、「乗せる時は、後部座席から前部座席」、「降ろす時は、前部座席から後部座席」の順番を守りましょう。

セーフティーゲートがない階段

階段からの転落事故を防ぐためには、セーフティーゲートの設置と滑り止めマットの使用が効果的です。セーフティーゲートは、階段の上下両方に設置しましょう。滑り止めマットは階段全体に設置することで、こどもが足を滑らせて転落するのを防ぐだけでなく、万が一転んでしまった場合でも衝撃を和らげる役割を果たします。

歩きながら歯磨きをしている子

こどもの歯みがき中に、歯ブラシをくわえたまま転倒したりぶつかったりします。のどを突く事故が起きています。座って歯を磨く習慣をつけましょう。のど突き防止歯ブラシも販売されています。